

捕獲や防護によるイノシシやサルの被害防止対策 1

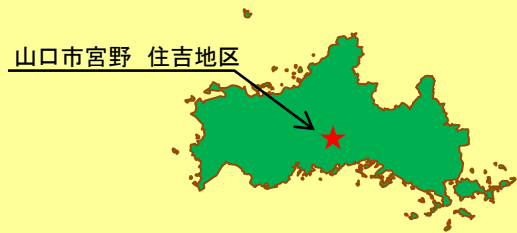
1 要旨

イノシシによる被害は侵入防止柵の設置により軽減しているが、サルによる農作物被害の増加、人に対する威嚇行動に悩まされている山口市宮野の住吉地区において、大型囲いわなの設置、放任果樹の除去や農作業等に合わせた見回り活動により、サルの出没回数が減少した。

令和元年度にサル10頭の捕獲があったため、令和2年度はサルの出没回数は極端に減少し、「はぐれサル」の出没を数回見る程度だった。

2 地区の概要

地区名	山口市宮野 住吉地区
戸数	30戸（うち、農家5戸）
耕作面積	1.4ha
主な作物	野菜
加害獣種	イノシシ、サル
対策実施年度	平成29年度



3 被害の状況と課題

○イノシシによる田畑の侵入や、掘り起しによる水路及び歩道の破壊、防護柵の破損など多大な被害を受けている。

○サルの出没により、農作物の被害を始め、人に対する威嚇などの話も聞くようになり、農作物の生産低下だけでなく、地域住民の安全も脅かす状況となっている。

○防護柵やサルの追払いだけでは、被害防止対策としては不十分との声が上がっている。

4 取組内容

(1) 集落環境調査を実施

○住民及び市の職員により、地区内を調査し、イノシシの侵入跡や破壊された水路や歩道の把握を始め、サルの出没の原因となっている放任果樹の有無などを地図に記載した。

○これをもとに自治会と市が協議し、被害防止対策を決定した。

(2) 対策の実践

○計画的かつ効率的なサルの捕獲を実施するため、大型囲いわなを設置。

○住民自らが放任果樹の除去及び水路の整備や草刈りなど実施した。

○既存の侵入防止柵についても維持管理を率先して行った。

(3) 地域住民への周知

見回りなどを通じて、イノシシ、サルの出没や農作物被害の状況や人的被害発生の警戒周知を行い、共通認識を図った。



サル捕獲用大型囲いわな

5 取組の成果

○令和元年度に10頭のサル捕獲があったためか、令和2年度はサルの出没回数は極端に減少し、農作物の被害も僅かなものであった。

○イノシシについても、近隣（法明院の裏）のイノシシ檻で捕獲されたこともあり、出没回数もほとんどなく農作物等の被害はなかった。

【被害額】

(千円)

区分	事業実施前	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		実績	増減	実績	増減	実績	増減
イノシシ	500	0	▲ 500	0	▲ 500	0	▲ 500
サル	200	30	▲ 170	30	▲ 170	5	▲ 195

6 地区代表者のコメント

イノシシによる野菜被害はなかった。サルによる野菜被害も、少なかったが、「はぐれサル」の出没があり、大根、植えたての玉葱、えんどう豆の若芽等に被害があった。

来年度はおそらく捕獲の効果も弱まり、「群れサル」の出没も予想されるので、引き続き檻内に多くの餌を入れることにしている。

なお、令和2年6月に町内のお寺（法明院）でサル駆除の供養（放生会）を行った関係もあり、和尚からも餌についての協力（お供えのお下がり）を得た。

7 今後の取組

引き続き、集落ぐるみで追い払い、見回り活動、放任果樹の除去や草刈りなど集落の環境整備を実施していく。これまで檻内は陽が当たらないので檻内に植えたトウモロコシは育たなかった。この度、地主の許可も得たので檻付近の雑木を伐採し、檻内の陽当たりを良くして野菜等を植え「自然のままの餌」を育てようと考えている。